

支援機器等教材活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		令和(元)年度
		読み書きの困難さを補うためのタブレット端末の活用
授業について	教科名等	<input checked="" type="checkbox"/> 国語 <input checked="" type="checkbox"/> 社会 <input checked="" type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input checked="" type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input type="checkbox"/> その他()
	単元・題材名	「読む」「書く」等の活動
	授業の目標	・タブレットを活用し読み書きへの負担を軽減することで、楽に学習に取り組めることを本人が実感する。
	学力の3要素	<input checked="" type="checkbox"/> 「知識及び技能」 <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」 <input checked="" type="checkbox"/> 「主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実態	学校・学部・学年・人数	<input checked="" type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない (6)年 (1)人
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input type="checkbox"/> LD(学習障害) <input type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/> その他
	子供の困難さ	<input checked="" type="checkbox"/> 見ること <input type="checkbox"/> 聞くこと <input type="checkbox"/> 話すこと <input checked="" type="checkbox"/> 読むこと <input checked="" type="checkbox"/> 書くこと <input type="checkbox"/> 動くこと <input type="checkbox"/> コミュニケーションをすること <input type="checkbox"/> 気持ちを表現すること <input type="checkbox"/> 落ち着くこと・集中すること <input type="checkbox"/> 概念(時間、大きさ等)を理解すること <input type="checkbox"/> 学習(計算、推論等)すること <input type="checkbox"/> その他 ・診断はない。 ・読むことが苦手。(時間がかかる、読んでも内容理解が難しい、字が小さいと読みづらい、勝手読みがある) ・書字も遅い。
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援(<input type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(<input type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援(<input checked="" type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input type="checkbox"/> C3社会生活支援) D実態把握支援(<input type="checkbox"/> D1実態把握支援)
	使用した支援機器等教材の名称と画像	・Surface Go(Windows系のタブレット端末) ・和太鼓(Wordの文章を読み上げてくれるフリーのアドイン) ・AccessReading(教科書の電子データ) ※Wordデータの国語と社会を使用。
授業展開	授業展開・支援の手立て	【個別学習】 ・国語…音読の宿題を、教科書を「読む」ではなくAccessReadingを「聞く」という形で実施。 ・社会…自主学習でAccessReadingを活用。 【授業】 ・教科書はタブレットにイヤホンをつけて読み上げ。テストは問題文をWordで作成し、イヤホンをつけて読み上げ。 ・読み方のわからない漢字や意味のわからない言葉等を調べる。 ・板書は必要に応じて写真撮影。資料やグラフなども見やすいように写真を撮り拡大。
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	当初、本人はICT機器の有効性を実感しておらず、使用する場面が少なかった。しかし、「いつ、どこで、どのように使うのか」を確認したことで使う頻度が上がり、実際に使うことで「使うと楽に勉強できる」というメリットを実感していった。テストでは、自読の場合とタブレットの読み上げの場合の両方を体験したところ、読み上げの方が点数が高かった。目に見える結果が出たことでより活用のメリットを感じることができ、「自分にはこういう学習方法が合っている」という自己理解に繋がった。 中学校でも使いたいという本人の意向もあり、進学先中学校の複数の教員がテストで使用している様子を参観したり、小・中学校合同の支援会議や保護者を交えた三者懇談を実施したりする等、校種間連携を丁寧に行った。